

2022年度 静岡県言語聴覚士会東部ブロック研修会 開催

2022年12月4日(日)に、2022年度 静岡県言語聴覚士会東部ブロック研修会を実施しました。フジ虎ノ門整形外科病院の松本先生の「パーキンソン病の増悪により重度嚥下障害を呈した一例」の症例検討と「各病院における摂食嚥下障害の評価について」のシンポジウムを実施しました。Zoomを用いたオンライン形式として開催しました。参加者は22名(会員16名、非会員6名)でした。

1 症例検討

フジ虎ノ門整形外科病院の松本先生に、パーキンソン病の増悪により重度嚥下障害を呈し、経口摂取継続への介入に難渋した症例について発表いただきました。口腔内汚染や外的要因(転倒で動かなくなり廃用症候群をきたす)により嚥下機能が低下してしまうことや、パーキンソン病薬の内服ができずパーキンソン病の増悪により経口摂取困難になってしま

パーキンソン病の増悪により
重度嚥下障害を呈した一例

2022年12月4日
静岡県言語聴覚士会 東部ブロック
社会福祉法人聾唖会フジ虎ノ門整形外科病院
言語聴覚士 松本 竜弥



まうなどパーキンソン病患者の臨床の難しさをお話してくださいました。質疑応答では栄養方法の検討や歯科衛生士による口腔ケアの介入、口腔ケアのアセスメントツールなどについて様々な意見・質問が出ました。パーキンソン病患者の臨床をする上で必要となる栄養方法・他職種連携について考えることができましたと思います。

2 シンポジウム

順天堂大学医学部附属静岡病院の海東先生、沼津市立病院の芹澤先生、富士いきいき病院の関根先生、フジ虎ノ門整形外科病院の前野が、「各病院における摂食嚥下障害の評価について」というテーマで、①病院紹介②嚥下評価③他職種連携④家族指導⑤訓練について話をしました。各病院の特徴や実施している検査について知るこ



とができました。意見交換の場では2点のことについて話し合いました。1点目は一口量が多い患者様に対してK-スプーン以外でどのような食具を使用しているのかについてです。100円均一ショップのマドラースプーンを使用することや食事を小分けにして提供するという意見が出ました。2点目は各病院の感染対策はどのようなことをしているのかについて話し合いました。嚥下障害の患者様のリハビリではN-95マスク・手袋などを使用している病院や、訓練物品を消毒しやすいように加工し訓練後に物品を消毒している病院など各病院の感染対策は様々でした。